

大正十二年九月一日

震災後警備

一班
(未定稿)

大正十二年十二月

警保局警務課

目次

一 震災當日於ケル幹部ノ行動

二 震災地ニ於ケル警備方法

(一) 戒嚴令ノ布告

(二) 臨時震災救護事務局組織ト警保局

(三) 警察力ノ充實

(一) 應援警察官招致

(二) 現任巡查ノ出向

(三) 臨時職負設置及巡查ノ増負

(四) 増置、件ヲ分署等ノ増加

(五) 各種設備

(六) 警備諸機關ト連絡

一四 一三 一三 一〇 一〇 八八 五五 五一

- (一) 情報、蒐集
 - (二) 検問所、設置
 - (三) 上京者、制限
 - (四) 自警團、取締
 - (五) 人心安定、対スル措置
 - (六) 通信、取締
 - (七) 出版物、取締
 - (八) 朝鮮人問題
 - (九) 要視察人其他容疑人物、取締
- 三、震災地ニ於ケル治安維持ニ対スル措置
- (一) 通信連絡、方法
 - (二) 司法事務ニ関スル委負會設置
 - (三) 準備打合協議會、開催

三〇 二六 二五 二四 二三 二二 " 二一 " 一七 一六 一四 一四

五 其他

- (一) 一般救護事業並其援助
 - (二) 罹災民ノ保護
 - (三) 海外ヨリノ救護
 - (四) 罹災外國人救護状況
- 四 警備部ト救護事業
- (一) 震災ト刑事警察
 - (二) 避難者密集地其他ノ警備
 - (三) 消防
- (一) 外事関係
 - (二) 震災ノ及ホセル経済界並人心ノ反影ト警察

八六ノ四〃一 四三 四一 三五 三四 三二

- (一) 罹災地行啓迄離宮宮邸ノ御齋脩
- (二) 罹災地齋察官ノ賞恤
- (三) 齋察共済組合規則ノ改正
- (四) 齋察賞與ノ増額
- (五) 消防主任官ノ招致
- (六) 罹災齋察官ニ對ス義捐

一 二 三 四 五 六

一、震災ニ関シ公布セラレタル法令（勅令以上）

九月二日 緊急勅令 非常徴發令

（號外第一號）

全 勅 令 臨時震災救護事務官制

（勅令三九八號）

全 緊急勅令 一定地域ニ戒嚴令中必要規定ヲ適用スルノ件

（勅令三九八號）

全 勅 令 大正十三年勅令第三九八號施行ニ関スル件

（勅令四〇〇號）

全 三日 勅 令 関東戒嚴司令部條例

（勅令四〇二號）

全 勅 令 大正十三年勅令第三九九號中改正ノ件

（勅令四〇三號）

全 四日 勅 令 同上ノ件

（勅令四〇三號）

九月七日 緊急勅令 治安維持ノ為ニスル罰則

（勅令四〇五號）

全 勅 令 生活必需品ニ関シ暴利取締ノ件

九月十二日 緊急勅令 震災施行既成權限ニ屬スル處分ニ基ク權利利益

（勅令四一三號）

存續期間等ニ関スル件

九月十二日

勅

令 震地警備事務ニ後事セルル為メ臨時職員

増置ノ件

(勅令四三號)

九月十五日

勅

令 東京府及神奈縣並街地建築物法適用已

域内ニ於テ假設建築物等ニ関スル件

(勅令四四號)

九月十七日

勅

令 臨時震地救護事務局官制中改正ノ件

(勅令四六號)

十月十三日

勅

令 震地警備事務ニ後事セルル為メ臨時

職員増置ノ件中改正ノ件

(勅令四四號)

令

勅

令 廳存縣ニ逃査定員ニ特例ヲ設クルノ件

(勅令四四號)

十月十五日

緊急勅令

大正十二年勅令三百九十八號廢止
(戒嚴令ノ適用廢止)

(勅令四七八號)

令

勅

大正十二年勅令才三九九號廢止
(戒嚴令ノ適用廢止)

(勅令四七九號)

一、震災當日ニ於ケル幹部ノ行動

九月一日午前十一時五十八分異様ノ音響ト共ニ性
 極メテ急ナル激震アリ震動強烈ニシテ歩行ハ勿論
 他物ニ倚ラリレハ~~倒~~立モ之ヲ能ハス廳舎内ニ執務シ
 ヲ、アリシ省員ハ地震ノ意外ニ強カリシタメ一部ハ直
 チニ屋外ニ逃レタルモ高一部ハ逃場ヲ失ヒ室内ニ残留シタ
 ル者モ尠カラサリキ第一震ノ小止ミトナルヤ殆ンド全
 員安全ナル廣場ニ避難セリ其後モ引續キ激烈ナ
 ル餘震頻々トシテ就來シ多クハ始メテ体験セル激震
 ニ其ノ処スル所ヲ知ラサルカ如シ市内ノ大層高樓亦
 一トシテ多少ノ損害ヲ蒙ラサルモノナク中ニハ脆クモ第一
 震ト共ニ山崩壞セルモノアリタリ

震害意外ニ大テシモアリシヲ以テ警保局長ハ直ニ
 宮中ニ出頭シ折柄御出仕中ニ在ラセラル、
 攝政宮殿下ノ御機嫌ヲ奉伺シ併テ震災概況
 ヲ言上セリ

地震ノ終ルト殆ト同時ニ内務省近クニ於テモ日比谷
 松本樓及警視廳裏ノ方面ニ於テ其他神田日本
 橋麹町方面ニモ既ニ黒煙ノ上レルヲ見折柄亂漸ク
 加リノ事能、重大ナルヘキヲ思ハシメ消防及警戒救
 護ニ際シ急遽機宜ノ措置ヲ講スルノ要アリ警保局長
 幹部ハ一先警保局長舎ニ於テ手筈ヲ打合せ局長
 ノ宮中ニ赴クト同時ニ時ヲ遷サス警視廳ニ出張シ
 警視廳ノ幹部ト之ヲ急策ニ付キ協議スルト共ニ

二 爾得能保安課長ヲシテ下町方面ノ災状調査
 出張セシメタリ 各方面ノ災勢ハ漸ク強ク市ノ西方ニ
 烟ノ捲キ上レルヲ見ルニ至リ警視廳近傍ヨリ起ル火
 災モ亦折柄ノ風ニ勢ヲ得テ概ニ猛火ハ廳舎ニ迫リ廳
 舎々危殆ヲ冒シテ窓ヲ閉鎖セシトスルモ地震ノ為ニ意
 ノ如クナラズ不意ニシテ火焰ニ包マルニ至リ 総監以
 テ各幹部及警保各ノ幹部ハ廳舎前ノ濠側ニ脚
 ノ卓ト敷脚ノ椅子ヲ並マテ警戒ノ本部ヲ作シテ各所
 各方面ヨリ来レル傳令ハ櫛ノ止園ヲ引クカ如ク或ハ高輪
 御所ノ燃上ヲ報レ或ハ數十ノ死者ヲ傳テ風頗ル強
 ク火勢益々猛烈ニ長ク濠側ニ本部ヲ置クニ堪ヌ一昨
 日此各公園内ニ引上ゲ夕刻ニ至リ第一甲学校内ニ本部ヲ

移、其間内務省も亦帝室林野管理局（林野）火災に因り
 大館内ヲ焼失スルニ至リ

警保各官ハ事態頗ル重大ナルモアルニ顧、一應内務
 大臣官邸ニ集リテ協議シ更ニ首相官邸内芝生に於
 テ開催中ノ緊急閣議ニ赴キ後藤警保局長及
 大塚警務課長ヨリ當野判明セル災害ノ情况ヲ報
 告セリ

當野當否者ノ最モ苦心シタルハ東京以外ノ地方ニ於ケル
 災害ノ情報ヲ得ルノ点ニ在リタリ、特ニ函陸下ハ速ク
 日見ニ御滞在在ラセラル、トコロニシテ同地方ニ於ケル震災
 ノ有無ヲ知ルカ為ニ頗ル考慮スルトコロアリキ、即チ各員
 各主要鐵道驛及中興電信各局ニ派シテ通信能ハスラ

調査ニシテカ幸々火塚並記官ハ上野駅ニ於テ鐵道横断
ヲ利用シ塙玉邸知事ヲ改テ折木邸知事ニ車庫地方
ノ震災概要ヲ通報スルコトヲ得タルニ其ノ成否必スレ
必スヘカラサルヲ以テ一方川お申係官ヲ白鶴車ヲ折木
邸下ニ派遣シ日光警署長ヲ統テ之カ情况ヲ引導シ
言上ノ旨致シ講ニタリ

其間市内各所後ニ調査スルニ凡ソ百三十余所ニテ火災セリ
ニ起リタル火ハ折木邸並ニ塙玉邸ニ於テ火勢愈々猛烈トナリ塙玉邸ノ
建物ハ互壁等剝落シテ可燃物露出ニ居タル為メ延焼
極々迅速ニシテ加之地震上同時ニ理橋神所ニ導ケル水路ニ
於テ所ノ破壊ヲ生シタル為メ後間ニテ水道断水シタル為メ
筒ノ為町ノ遠キヨリ水ヲ需ムルニ止ムキニ至リ既ニ放水管ハ

得テ災害ノ只ニ東京ノミニ止マラサルヲ知ルニ至リタリト雖
 元ヨリ詳報ヲ得ルニ至ラスレテ夜ニ入レリ。翌二日午前四
 時頃橋本煉廬ヨリ特派セル三橋理事官ハ同地方ニ震
 災ナク。兩陛下ニ御異状ナキト告ノ報告ヲ齎ラレシ
 官邸ニ到着シ一同漸ク愁眉ヲ解ケリ。續イテ午前
 五時迄キ市民某氏横濱ヨリ徒歩ニテ帰京シテ同
 市ノ惨害ノ情報ヲ具ニ申告シ初メテ同市ノ殆ト全
 滅ニ近キヲ知ルニ至レリ。警保各員及省内ノ幹部
 ハ時々刻々ニ到着スル報告ニ依リテ不取敢急速ニ
 餘料醫療品等ヲ集ムルノ計劃ヲ樹テ且今後
 ニ於ケル計劃施設其他ニ莫スル謀議ヲ凝ラシ又時々
 各員ヲ市内ニ派遣シテ情况ヲ視察セシムル等活

0134

動ヲ續ケテ某一夜ヲ宮邸カ芝生ニ徹セリ

大正十二年九月一日ノ地震及之ニ伴フ火災等ニ依ル被害調査

區別	人			家			屋			(世帯)	
	死	傷	行方不明	計	全焼	半焼	全潰	半潰	流失	計	
東京	六八三五	四二三五	三九三四	一四九、六五四	三、八七〇	七五	一九五四	二九二八	六五五	三三四二	
神奈川	二九四八	六六三九	三五五九	九九三六六	六四、七五三	七五	六六三六六	四三二〇八	六五五	一七四九五七	
千葉	一三四五	二七八四	一三	四一四二	四四九		一四、三八五	七、五三五	四八	二二四〇九	
埼玉	二二七	五二七		七三四			四、七三三	三、三四九		八〇六三	
静岡	三六〇	一、三六四	六四	一、六八八			四、三三九	五、三五二	七四八	一〇、三三八	
山梨	二〇	二一六		一三六			九二五	二、九八九		三、九一四	
浜城	一〇	五四		六四			一三〇	三二〇		四五〇	
合計	九九六五	二二、三九九	四、三九四	二五、五七八	三五、〇九二	七五	二〇、二九八	九一、八三五	一、四五二	五、五四、四五二	

備考一人ニ就テノ被害ハ十月三日調査(但シ静岡縣ハ十月六日調査)
 二家屬ニ就テノ被害ハ十月十日調査
 山梨縣ハ十月十日調査

二、震災災地ニ於ケル警告備方法

(一) 戒嚴令ノ布告

震災災地當日警告視総監ニ要求ニ依リ東京衛戍司令部官ハ在東部隊ノ出勤ヲ命ジ市内各所ニ部隊ヲ派遣シテ警告奉官ト共ニ避難民ノ救護消防等ニ従事シタルカ事態愈々重大ニシテ震災地ノ治安維持上戒嚴令ノ一部施行ヲ必要トスルモアリ
 二、目緊急勅令(第三九八号)戒嚴令中ノ一部施行ニ關スル件ヲ制定公布セラレ
 同時ニ勅令第三百九十九号ヲ以テ戒嚴令中第九條及第十四條ノ規定ヲ東京府下八ヶ敷市、三多摩郡及島嶼ヲ除ク地域ニ適用セラレ
 右地域ハ其後各地

震災被害ノ判明迄ニ四圍ノ状況ニ依リ翌三日東
 京府及神奈川縣一團ニ改メラル從前ノ東京衛
 戍司令官ニ代アル神奈川縣横須賀市及三浦郡
 三浦市ハ横須賀鎮守府司令長官其他ノ地域ハ
 關東戒嚴司令官ヲシテ司令官ノ職務ヲ行ハレムル
 コトナリ別ニ關東戒嚴司令全部條例ヲ公布シテ其ノ
 組織及司令官ノ權限ヲ明ニシテ同日更ニ適用地域ヲ
 埼玉千葉兩縣ニ擴張セラレタリ

(三) 臨時震災救護事務局組織ト發言保局

九月二日勅令第三百九十七號ヲ以テ臨時震災救護
 事務局官制發布セラレ事務局ヲ内務大臣官邸
 内ニ置テ事務局ハ總裁副總裁委員事務官

書記等ノ職員ヲ置キ組織ハ之ヲ總務部、食料部、
 材科部、運輸交通通信連絡部（後ニ交通部ト
 改シ）食料水部、衛生醫務部、警備部ト稱スル
 收容設備部、義損全部（九月七日新設）會計經理
 部、土部、介々警保局員ハ後藤警保局長委
 員ニ其他各員事務官又ハ書記ニ任セリ何レモ警備
 部勤務ヲ命セラレ又陸海軍及司法關係職員ヨリ
 又警備部勤務ノ委員事務官等ヲ任命セリ又岸
 一者ト協力シテ震災地ニ於ケル治安保持ニ關スル
 事務ヲ兼掌スルコトトナレリ
 警備部ハ更ニ庶務、文書、高層警備、警備材
 料、特別宣傳、出版、刑事、陸軍、海軍、十係

二分し庶務係ハ警備事務一般ニ關スル立案、審
 査及渉外事項、文書係ハ文書ノ發送、收受、整理
 及報告ニ關スル事項、高警警務係ハ朝鮮人ノ取
 締、其他特別高警警察ニ關スル事項、警備
 材料係ハ諸官廳ニ對スルガソリン、配給（後ニ交
 通部ノ主管ニ遷ス）及警備用自動車其他警察
 電話復舊ニ關スル事項、特別宣傳係ハ警察止
 有用ナル宣傳ニ關スル事項、出版係ハ震災ニ關
 スル出版警察刑事係ハ同刑事警察ニ關スル事
 項ヲ夫々分擔セリ

九月四日臨時震災事務官制第七條ニ基キ臨
 時震災救護事務局神奈川縣支部ヲ設置セリ

各部ヨリ事務官一人書記一人支部ニ駐在スルコトナリ
警備部ヨリハ大森事務官及上草書記ヲ派遣
セリ

警備部委員南九ノ如シ

警保局長

陸軍省軍務局長

海軍省軍務局長

外務省情報部次長

司法省刑事局長

憲兵司令官

内務省監察官

陸軍少將

後藤 文夫

畑 英太郎

大角 岑生

廣田 弘毅

林 頼三郎

小泉 大 一

松井 茂

阿部 信行

7

0141

海 陸 檢
軍 省 事
省 法 務 局 長
務 局 長

内 松 小
田 本 山
重 慶 松
成 次 吉 郎

③ 警察力ノ充實

(1) 應援警察官拒致

震災後罹災地ニ於ケル警察力ハ平時ト異ナリテ特ニ強大ナルヲ要スルコト切ナルモノアルニ拘ラス警察官ノ死傷・行衛不明等多ク知ラルニ火火ニ燒ハレタル地域ニ居ヲ有スル者ノ中ニハ制服制帽等ヲ燒失シ普通勤務ニ服スル能ハサル者アリテ警察力ノ減殺セラレ、コト大ナルモノアリテ急速ニ補充スルノ必要アルニ鑑ミ警保局長名ヲ以テ九月二日群馬、栃木、其ノ他近縣ニ對シ制服警察官ノ急派ヲ電命シタルヲ九月三日午後四時栃木縣警部松沼保次ノ引卒業ル巡査四十名ノ警視廳ニ到着シタルヲ第一トシ四日午後三時迄警視廳管下ニ到着夫々部署ニ就キタル者七百六十

七名、群馬縣ヨリ神奈川縣ニ到着シタル者二百二十名ヲ算

ハ

然レトモ千葉縣ノ如キハ房洲方面ノ震災被害判明ト共ニ
此ノ方面ニ警察力ヲ要スル急ナルモノアルノミナラスニ日來靡
漫セル流言浮説ノ為メ千葉、埼玉、群馬等近縣ニ自警
團ノ立動スルアリテ應援警察官ノ歸縣セシムルノ必要アリ
リシヲ以テ近畿、東北ヨリノ應援員到着ト共ニ此等諸縣
ヨリノ派遣員ヲ歸縣セシメタリ

此等急接警察官ハ交通機關不備ノ為震災地ニ來
ル途中ニ於テモ綫多ノ困難ヲ嘗メタルノミナラス到着後ニ
於テモ食料ノ不充分ナルハ忽論休憩ノ設備モナク甚
タシキハ夜間貨物自動車上ニテ外套ヲ被リ僅ニ睡眠ヲ貪

ル世ヲ殆ト露管ノ生活ヲ續ケ短キモ十日長キハ一月餘ニ
 亘リ寢食ヲ忘ルテ激務ニ服シ或ハ救護ニ或ハ遊藝ニ當
 レルハ勿論甚シキハ死者ノ函片付ケニ迄從事シタルガ如キモ
 ノアリテ殆ト平時ニ於テ想像シ得サルトコロナリ

應援敬言察官表
敬言視廳へ應援

山形	新潟	福島	石川	京都	茨城	長野	栃木	千葉	應援廳
九月九日	九月七日	〃	〃	〃	〃	九月四日	〃	九月三日	到着月日
十月一日	十月三日	十月三日	九月十四日	九月廿五日	十月二日	九月廿日	十月三日	九月九日	帰廳月日
	一								終視廳
二	二	二	一	一	二	五	一	一	敬言部
四	二	六		二	六	一〇	一	二	敬言部補
一	五	一七	二	七	一	二	二	五	巡查部長
九	一〇〇	一六九	八	一四	一〇	二一三	四〇	九二	巡查
一〇九	一〇〇	一九四	一一	二四	一四〇	二四九	四四	一〇〇	計

富山	石川	福井	奈良	岐阜	三重	京都	宮城	兵庫	秋田	青森	樺太
〃	〃	〃	九月廿九日	〃	〃	〃	九月廿八日	〃	九月廿日	九月十九日	九月九日
十月廿一日	〃	〃	十月廿九日	十月廿七日	十月廿四日	十月十五日	十月廿九日	〃	十月廿一日	十月廿日	九月十五日
								一			
						一		四	一	一	
一	一	一	一	一	一	一	一	七	三	三	一
二	二	二	二	三	二	七	二	一四	六	六	一
二五	三〇	二五	二五	三五	三〇	九〇	二五	一四五	四〇	四〇	二
二八	三三	二八	二八	三九	三三	九九	二八	一八一	五〇	五〇	四

9
一表

和歌山	愛知	新潟	山形	福島	長野	栃木	茨城
1	十月二日	1	1	1	1	1	十月一日
十月廿九日	1	1	十月廿一日	十月廿五日	1	1	十月廿五日
	一						一
一	二	一	一	一	一	一	一
二	六	三	二	二	三	二	二
二五	九〇	四〇	三〇	三〇	四〇	二五	三〇
二八	九九	四四	三三	三三	四四	二八	三四

應援警察官表

神奈川縣へ應援

郡	山梨	滋賀	大沼	静岡	愛知	山梨	兵庫	群馬	應援廳
九月廿日	十月一日	九月廿九日	九月廿八日	九月廿一日	九月十九日	九月十日	九月十日	九月三日	到着日
十月三日	十月廿日	十月廿八日	十月廿八日	〃	九月廿日	九月廿日	九月廿日	九月十八日	帰館日
							一	一	應援
一			二	一	二	二	四	四	視察
	一	一	五		三	四	六	九	補助
二	二	一	一八	二	八	八	一三	一六	調査
二七	二五	二五	二五〇	二八	八七	八〇	一〇八	一八七	査
三四	三八	二八	二七五	三一	一〇〇	九四	一三二	二一七	計

9
三表

三	愛	岐
重	知	阜
十月廿日	十月廿日	十月廿日
		目下左様
一	一	一
二	三	三
二	三	三
二	一	一
二	五	三
五	五	五

千葉縣、應援

宮	應
城	援
九月十九日	到着月日
九月廿九日	帰郷月日
一	一
二	二
五	五
二	二
七	七

埼玉縣、應援

岩	應
手	援
九月廿日	到着月日
十月十五日	帰郷月日
一	一
六	六
四	四
三	三
五	五

山 魏任巡查ノ出向

震災當初ニ於テハ取敢ヘス近縣ヨリ應援巡查ヲ招致
 實績道後、東北其他ヨリモ應援ヲ求メ近縣ノ者ト交
 心セシムル様應急ノ措置ヲ講シ警察力ノ不足ヲ補フタ
 ルト前述ノ如キモ教習所ノ焼失、其ノ他ノ事由ニ依リ
 多数ノ缺員ヲ急速ニ補充スルコト困難ナルニテラス四
 圍ノ情勢ハ長ク一時的ノ應援ニノミ依ルコト能ハサルモ
 ノアルニ至リタルヲ以テ警視廳並ニ神奈川縣ニ對シ各
 府縣ヨリ現任巡查中ノ出向希望者ヲ募リテ兩地ニ轉
 勤セシムル方針ヲ採リテ各府縣ニ通牒シ先ツ警視廳
 ニ九百名、神奈川縣ニ若干名ヲ出向セシメタリ

(ハ) 臨時職員設置及巡查増員

震災地殊ニ東京府及神奈川県下ニ於ケル惨害ハ激甚ヲ
 極メ人心動搖シ治安ノ維持容易ナラサルモアリ之ヲ善
 後ノ處置ヲ講スル爲ニハ警備、防護、保安其他諸般ノ
 事項ニ関シ警察官ノ活動ハ一層緊要ヲ加ヘ平時ノ組織
 ヲ以テシテハ到底其ノ急ニ應スル能ハサル情况ニ在リ。巡
 査警部補等ニ付テハ不取敢應援員ヲ以テ實カヲ増加シタ
 ルモ本部ニ在リテ計謀等要員ノ任ニ當リ又ハ出テ、執行部
 隊ヲ統率監督ニ當ルハキ上級幹部ハ外部ノ應援ニ依ルコ
 ト能ハサルモアルノミナラス大震災後ニ於ケル警察ノ紀律
 維持ノ爲ニハ特ニ有カナル監督機關ヲ必要トスルヲ以テ警
 視廳及神奈川県ニ對シ警備ノ事務ニ從事セシムル爲メ

臨時職員ヲ設置スルコトナシ勅令第四一五號ヲ以テ震
 災地警備ノ事務ニ從事セシムル爲臨時職員増置ノ件
 公布セラレ警視廳ニ警視五人(監察官三人 保安部勤務二人) 警部二十人神
 奈川縣ニ警視二人(監察一人 保安課長一人) 警部八人ヲ増置シタリ然レ
 トモ戒嚴令ノ一部施行期間中ニ於ケル治安ノ維持ハ警察
 官ノ外強大ナル軍隊ノ力ヲ以テ爲シツ、アルモ早晚之ヲ撤
 廢ヲ見ルニ於テハ(警備力薄弱トナリ且ツ) 警察事務ノ繁末多ヲ來スヘキハ想像スルニ
 難カラサル所ニシテ京濱及埼玉、千葉ノ兩隣接縣ニ於ケル治
 安維持ノ爲ニハ警察官ノ増員ヲ要スルコト切ナルモアリ 殊ニ
 東京及横濱ノ兩市ハ其ノ大部分火災ヲ被リ此等罹災民ハ何
 レモ郡部ニ親戚知己故舊ヨリ便リテ避難シタル結果隣接
 郡部ノ人口激増シ震災前ノ比ニアラサルノミナラス市内繁榮

一部ハ此等郡部ニ移動シ警察事故亦滋生スルノ現状
 ナルニ拘ラス郡部ニ於ケル巡查ノ定員ハ震災前ヨリ比較的少
 ナク郡部不安ノ聲ヲ聞クコト既ニ久シキモアリ今回ノ變
 動以來益警察力稀薄トナリ來リテ軍隊撤退後ニ於ケ
 ル治安維持ニ懸念セラルコト大ナルモアリタルヲ以テ九月三十
 五日勅令第四五號ヲ以テ當分ノ内東京府及神奈川県ノ
 郡部ニ於ケル巡查ノ定員ヲ大正五年勅令第三十號ノ市ニ
 關スル定員ノ制度内ニ於テ内務大臣之ヲ定ムルコトナシ從來
 ノ郡部ニ於ケル巡查定員ノ制限ヲ緩和シ市部同様人口三
 百ニ付巡查一人ヲ置クコトヲ得セシメ之ト共ニ主トシテ東京
 府下ノ郡部及神奈川県下ニ於ケル巡查ノ増置ヲ計畫
 施行セリ

今回ノ増員ハ全部國庫ノ補給ニ成リ其ノ定員ハ警視廳
 二千名内警部補百名神奈川縣三百名内警部補十五名
 埼玉千葉ノ兩縣ハ各百名ノ内警部補五名ナリ而シテ之
 一伴ヲ監督官ノ増員ヲ必要トシタルヲ以テ九月三十日臨
 時職員ニ關スル勅令ヲ改正シテ警視廳ニ更ニ警視
 六人(警察署長)警部二十四人ヲ神奈川縣ニ警視一人
 (警察署長)警部四人ヲ増置シ埼玉千葉ノ兩縣ニハ
 各警部二人ヲ増置スルコトナリ右増員ノ充實ハ事
 急ヲ要シ到底數ヶ月ノ募集教養ヲ待ツヘキニアラス依
 テ再ヒ下部分ヲ出向セシムルコト、ナシ警視廳へ各府縣の
 リ~~七~~百名朝鮮總督府ヨリ二百名、神奈川縣約三百名ヲ出
 向シ、其ノ他ハ教習ニ依ルコトナシ特ニ此ノ際ニ限り教習

期間ヲ二月ニ短縮シ銳意教養ノ實施中ニ在リ既ニ
 警視廳ノ分ハ十一月六日以降修業者ヲ出シ初メ十二月十
 三日ヲ以テ一通リ充實ノ域ニ達スヘク神奈川県モ亦約百
 名ノ缺員ニ對シ二百余名ノ教習生ヲ收容中ナリ

(三) 増置ニ伴フ分署等ノ増加

前項ノ如ク警察官ノ増員ヲ行ハタルニ伴ヒ
 警視廳ニ於テハ八分署 百二十五派出所ヲ神
 奈川縣ニ於テハ二分署 三十五派出所ヲ埼玉
 縣及千葉縣ニ於テハ各二警部補派出所
 五ヶ所駐在所ヲ増置シ其他東京市ニ於テ
 ハ別ニ二百二十一立番所(市内百二十一ヶ所
 外百ヶ所)ヲ設置シ夫々警察官ヲ配置
 シタリ

各種ノ設備

警備上ノ設備ニ付應急ノ必要ニ依リ施設シタル
ノ概要左ノ如シ

一 電話

警備視察及神奈川縣トモ在庫ノ電話線
器具等全部ヲ焼失シ即急ノ需用ニ應スル
コト能ハサルニアリ依テ九月二日早朝ノ飛行
便ニ托シテ大阪ヨリ二十哩ノ電話線ヲ取
寄セタルヲ初メトシ後數日ニシテ京浜間ニ直
通電話

ヲ施スシテ、警備隊、官業、及主野ナル各署間ニ警備
 察電話ヲ通シ、近縣ニ對シテハ特ニ通牒ヲ發シテ、埼玉縣
 ヲリ板橋署迄、千葉縣ヨリ小松川署マテ電話ヲ復
 舊セシメ、函署トテ、縣間ニハ特別傳令ヲ置キテ、緊急ノ
 用務ニ服ヒシメ、引續キ各署間ノ電話復舊ニ努力、函府
 縣トシテ、殆ト完成ノ域ニ達セリ

右ノ外、警備隊、及神奈川県ニハ緊急ノ用ニ應ジシムル
 爲、野外電話ヲ設備セシムルノ方法ヲ講セリ

(二) 自動車、自轉車

自動車及自轉車ニ就テハ、地方ニ於テ出來得ル限り、借リ
 上ケ、又ハ徵收シタルノ外、新潟、富山、長野、栃木、埼玉等
 ノ數縣ヨリ、各款ノ電ヲ借上ケテ、緊急ノ用ニ供シタルイ

後漸次之ヲ解除シテニ警察官輸送用ノ貨物自動車
 數百ノリイホーカ一井ニ多數ノ自轉車ヲ設備セリ

(三) 水上船艇及消防器具ノ應急補給

横濱及東京トニ多數ノ水上警察船艇及消防唧筒
 ヲ損失シテ當ノ救護警戒消防ニ困難ヲ生スルコトア
 ルニ鑑ミ西府縣ニ對シ特ニ應急施設ニ必要ナル程度ノ
 贈入費ヲ補給セリ

(四) 拳銃帶用

特ニ防令ヲ改正シテ必要ニ應シ拳銃ヲ帶用セシムルコ
 ト^{ト得ルコト}ナシ警視廳・神奈川・千葉・埼玉ノ四府縣ニ各相
 當數ノ拳銃ヲ備付ケシムル經費ヲ補給セリ

(四) 警備諸機関トノ連絡

(イ) 警備打合セ協議會開催

九月三日ヨリ毎日(後順次回數ヲ減シ十月初旬以降週一回ナリ)
 午前九時ヨリ警備部内ニ警備部委員及事務官ノ
 警備打合セ協議會ヲ開催セリ出席者ハ警保局幹
 部、戒嚴司令部、陸軍省、海軍省、司法省及検事局、
 警視廳ノ警備部委員又ハ事務官ニシテ各其ノ接受
 セル情報ノ交換ヲ為スト共ニ警備ニ関スル打合セヲ為シ
 來ルル方連絡ノ保持及協同動作上頗ル好結果ヲ得タリ
 本委員會ニ主トシテ出席セルハ警保局長及同課長事務
 官ノ外戒嚴司令部ヨリ中佐(後森中佐ニ代ル)陸軍省川
 村少佐、佐野大尉、海軍省小林少佐、司法省古田參事官、

警視廳馬場警務部長、小林警務課長、憲兵司令
 部三宅大佐（後須藤中佐、曾野大尉）等ナリ

(四) 司法事務ニ関スル委員會設置

非常災害ノ後ニ於テハ竊盜其他各種犯罪事件ハ勿論
 九月二日以後ニ於ケル流言蜚語ニ起因セル各地ノ騷擾殺
 傷事件ハ其ノ範圍頗ル廣汎ニ亘リ犯人亦著ク多数ニ上ル
 見込ニテ之ヲ捜査ハ甚敷困難ナルノミナラス一步ヲ誤ルニ於
 テハ諸種ノ問題ヲ生スルニ至ルヘク特ニ慎重ノ注意ヲ要スル
 モアリ故ニ各關係官廳相互ニ連絡ヲ採リ各機關ノ取
 調又ハ偵知シタル材料ヲ交換シ且之ニ對スル捜査検査手
 ノ方針ヲ確立スル爲メ九月九日ヨリ司法事務委員會ヲ
 設置セリ本委員會ニ主トシテ列席セル委員ハ内務省

側湯次警視總監、後藤警保局長、陸軍省側松本
 法務局長、河部參謀長、小泉憲兵司令官、海軍省
 側内田法務局長、司法省側林刑事局長、小山大審院
 横事等ニシテ事務官、警保局長高等官、戒嚴司令
 部森中佐、木下警視廳刑事部長、岩松検事、池
 田検事、吉田参事官、陸軍法務官、三宅憲兵大佐、後
 須藤中佐(代心)海軍法務官等ナリ

(五) 通信連絡ノ方法

地震と同時に電信電話電報鐵道等總テ交通
 通信機関悉ク不通トナリ帝都ニ於ケル震災ノ情
 況ヲ敏速ニ各地ニ報道シテ救援ヲ依頼スルコト不
 能ナルノミナラス近縣ハ勿論警視廳管下情況
 廿ハ知ルニ由ナキ状態ニシテ當初ニ於テ各地トノ通信
 連絡ハ傳令又ハ船橋無線電信等ニ依頼シテ為スル
 外全ク術ナカリシナリ如斯有様ニシテ通信機関特
 ニ警察電話復旧ハ警備上焦眉ノ緊要事ナリシヲ
 以テ九月二日以來警視廳ヲ特督勵シテ警察官廳
 間及管下主要警察署ノ専用電話復旧ヲ急カシメ
 又埼玉千葉茨城兩縣ニ通牒シテ警視廳管下最近

警察署迄ノ敬ニ警察電話速成ヲ促セリ
 當時ニ於テハ東京ニ於テ電話線其他器具ヲ購入スル
 ノ方法ナクモ以テ前述ノ如ク大阪ヨリ駆逐艦ニ電
 線ノ輸送ヲ受ケ又近縣ヨリ諸材料入手ノ方法ヲ講ス
 ルト共ニ三日終備打合協議會ニ於テ陸軍側ノ了
 解ヲ得軍隊ニ於テモ之カ連絡助成ニ必要ナル材料及
 工兵ノ供給ヲ受クルコトナリ又關俣官廳ノ連絡上
 必要ナル箇所ニ軍用電話ヲ架設スルコトナレリ
 警察電話ハ三日先崎玉縣廳ト板橋警察署間
 ニ開通シ續イテ千葉縣廳ト小松川警察署間トノ通
 話可能トナリ終視廳管下ハ三日山手方面ノ一部并
 通シ九日全縣警察署間ノ應急工事完成セリ故視廳神奈川
 縣間ノ道通電話ハ九月十日ヨリ終視廳ノ手ニテ工事ヲ急カ

十日早朝通話可能トナレリ又一面新橋ト旭方トノ電報通信
 九月六日ヨリ下部通シハ爲メ初メテ通信ヲ得ルニ至リナリ
 交通機關ハ僅ニ自動車・自轉車等ニ依ルノ外ナリ
 橋梁・隧上落焼燬シルモノ東京市ノミチニ二百數
 十ニ及ヒ横濱其他亦之ニ準レ加フルニ建造物ノ崩
 壞・架空電線ノ落下交錯等ニ依リ火災起域ニ於テ
 ハ自動車ノ~~交通~~三三意ノ如クナニナル状態ナリシ以テ
 連ニ假架橋ヲ行フト共ニ交通上支障アル障礙物
 ヲ除去スルニトナリ主トシテ陸軍ニ於テ其任ニ當リ交通
 ノ便ヲ促進シルガ當時唯一ノ交通機關タル自動車
 ハ燒失等ニ依リ車輛減少セルニ拘ラヌ需要激增レ
 タル爲メ東京・於テハ之ノ力盡上難ノ状態ナリシカハ當
 部ニテハ九月三日群馬・栃木・長野・新潟・富山・ノ

五噸對シ各自動車五輛ヲ雇上ケガソリシ。タイヤ
 其他必需品ヲ積載急派方ヲ通牒シタルカ五日長
 野際ヨリ五輛到着シタルヲ始メレシテ順次來着各地
 トノ通信連絡其他各地ノ情況視察等ニ使用シ事
 務ノ處理ニ敏治ナルヲ得タルコト前記ノ如シ

其他海軍側ニ於テモ清水港ト東京又ハ横濱其他
 要地間ニ連絡艦船ヲ航行セシメ通信特便發信備
 隊ノ派遣ニ關シ出來得ル限り便宜ヲ供與スルコト

トナレリ

又東京ノ市内電車ハ電力ノ供給杜絶シタルハ勿論
 橋梁ノ燒失加線ノ故障等ノ為メ全ク運轉不能
 トナリシカ九月十日頃ヨリ少ノ手方面ノ一部先ツ開通レ

徐々ニ運轉線路ヲ延長シタリト雖火災ノ當時燒失
 地域ニ在リシル車輛約八百有餘台ヲ灰燼ニ歸レタト
 之カ乗客ノ激増トヨリ到底市民ノ需要ヲ滿ス能
 ハス今尚婦女子ノ如キハ之ヲ利用殆ト不可能ノ状
 態ナリ

三 震災地ニ於ケル治安維持ニ對スル措置

(一) 情報ノ蒐集

震災状況ノ真相ヲ知悉スルコトハ震災地ノ警備
其他罹災地民ノ救護計畫ヲ確立スル上ニ於テ緊
要事ナリシニ拘ラス當時通信交通ノ杜絶ハ近鄰ハ勿
論東京市ノ状況サハ判明セザル状態ナリシヲ以テ日
午後以來時々重務官ヲ市内各方面ニ派遣シテ刻々
展開スル其状況ヲ偵察セシメタリ

東京市以外ノ震災ノ繁スル情報ノ蒐集ハ最モ苦
心シタルトコロナルカ一日午後一時頃頃埼玉縣ノ巡査部
長一名自動車ヲ縣下ノ情報ヲ齎シタルヲ初メ
トシ二日前四時三橋橋木縣理事官自動車ニテ

萬雅ヲ排レ猛火ノ下ヲ潛ツテ大臣官邸ニ来リ
 聖上ノ御安泰ヲ報ニ續イテ午前四時迄キ一人民權
 濱市慘害ノ概報ヲ齊シ續イテ千葉縣ヨリノ報告
 到着ニ高夕刻ニ至リ神奈川県野口警務部長ハ
 坂西高榮謀是ト共ニ横濱ヨリ徒歩ニテ上京縣下
 ノ状況ヲ悉細報告スルニ及ヒ近隣ニ於ケル慘害ノ
 大要ヲ知ルコトヲ得ルニ至レリ

先是警視廳ニ於テハ一日午后以來時々災害情報
 ヲ發行シテ市下ノ情勢ヲ報告シ来リタルニ
 大下ノハ到底報告ノミシ以テ満足スルコト能
 ハズ近隣ノ状況ノ調査亦急ヲ要スル為メ時々刻々
 警務隊ヲ市田ニ派シタル外三日夕刻川村重徳ハ

カ危険ヲ冒シテ正東方面ニ出動シタルヲ初メトシ市
 務官、書記ヲ神奈川、千葉、埼玉、栃木其他近
 邊ト勿論遠々大坂方面ニマテ派遣シ或ハ東京府
 下伊豆大島ニ書記ヲ派遣シテ震災状況ヲ視察
 セシムルノ外特ニ人心ノ傾向及一般的ノ情勢ヲ偵知
 セシムル爲メ警務局講習所ノ生徒ヲ召集シテ毎日東京
 市内及隣接郡部ノ状況ヲ視察報告セシメタリ
 其ノ方途ハ全生徒ヲ三十班ニ分ケ一班ノ至人乃至五人
 トシ市内及隣接郡部ヲ区劃相考セシメ松井、森、
 川、瀧、事、務、官、務、糧、ノ、下、ニ、其、ノ、区、劃、内、於、ケル、情、報、
 蒐集ニ當ラシメ各班ヨリ毎日一名ヲ出頭セシメ其得
 る情報ヲ報告セシムルモノニテ之ニ依テ得ルモノトシ又

少くもサリキ

盧野罹災厄ハ橋梁殆ト焼失又ハ破壊シ道路亦
 焼燼セル建物ノ残骸横ハリテ車馬ヲ逆ニテ以テ視
 察愛ハ劣行ニ依リ外ナリ而モ渴ヲ強スルニ飲料水
 ナク皆無ノ状態ニシテ其困難ハ想像ノ外ニ出ツルニ
 ノアリ部員生徒共ニ中ニハ一家離散シ或ハ家屋
 焼失ノ厄ニ遭ヒタル者アルニ拘ラスモ克ク其任務ノ重大
 ナルヲ自覺シテ其任ヲ全フニ以テ警戒警備ノ方策
 樹立ニ資スルハ感謝スヘキトコトナリ